

第6回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 回答・意見概要

日時	令和4年(2022年)2月
場所	書面による開催
回答委員	別紙のとおり
議題	1) 前回委員会の振り返り 2) 今後の方向性 3) スケジュール
審議事項	今後の方向性については全委員が「承認」
意見概要	
ワークショップについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ワークショップでは、賛成反対意見も含め、専門的な視点や予算の視点など幅広い意見を聞ける方がよい。</li> <li>・市民ワークショップでは、熊本市の気候や環境に適した樹種や管理方法など、市民には分かりづらい専門的な情報も提示した方がよい。</li> <li>・20年から30年後の街路樹の適切な姿、庁内連携、公民連携を踏まえてワークショップを進めていく。</li> <li>・庁内ワークショップは継続的に進めていき、熊本市の緑を庁内連携で考えるきっかけとなってほしい。</li> <li>・庁内ワークショップでは、熊本市全体のまちづくりを考えてほしい。電線の地中化等の他事業との関連性も考えると、庁内ワークショップは大切。</li> </ul>
街路樹再生計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、緑を維持管理する担い手の減少や予算の圧縮が予測される中、その場限りの伐採による縮減策ではなく、将来を見据えた、都市全体の緑の環境を整えることが重要。</li> <li>・高木の伐採で緑の量を減らすのではなく、低木の撤去を中心に考える。維持管理費の軽減のみならず、都市の温暖化を防ぐ緑被率を確保できる。</li> <li>・50年後を見据えた健全な緑の維持のため、新規に植栽する場合には植栽基盤の整備を行い、樹木の生育環境を整える。都市型の洪水防災にも大きな効果が期待できる。</li> <li>・街路のスケール感に見合った樹種への転換(将来巨木化するクスノキやケヤキなどから他の樹種へ)を行う。植栽当初の背景を調べた上で検討する。</li> <li>・基準の整理の仕方が重要。補植と樹高の基準は必要。</li> <li>・伐採木の種を子供達に家で育ててもらおう等子供たちを巻き込んだ取り組みがあるとよい。その際には、孤立しやすい世帯の方々に参加してもらえようような積極的なアプローチ方法を考える。</li> <li>・木を切ると、緑が減り、CO2が増える。移植ができるものは移植をした方がよい。</li> <li>・対策実施の際は、重要ポイントやエリアを決め、10年～15年計画で少しずつ実施する方がよい。</li> <li>・維持管理のランニングコストの低減を考慮した50年スパンの計画が必要。</li> <li>・ブツ切り剪定等の不適切な管理を行わない。対策として競争入札参加資</li> </ul>

	<p>格要件の中で有資格者の配置を義務付ける。また、その出来栄を行政が評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点路線だけでなく、その他の街路樹全体に浸透させていく必要がある。</li> <li>・緑のネットワーク、バンクのようなものができればよい。</li> </ul>
情報発信について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今、都市の緑について市民の見る目が大変厳しい。市民に納得のいく形で再生の姿を具現化していくことが重要。</li> <li>・伐採するだけでなく、新たな樹種を植栽して街並みの景観の維持に努めていくことも市民に伝えてもらいたい。</li> <li>・グリーンインフラの整備や適切な街路樹管理の効果は、具体的な経済的数値で計画の内容が伝えられるとよい。</li> <li>・適正な伐採や管理を行えば、見た目は現状と変わらないことを伝える。</li> <li>・今回実施する間引き基準を明確にし、その基準との適合性を検証したうえで、間引きが必要だと説明する。</li> <li>・SNS だけでは見る人が限られるため、新聞コーナーや市電の広告等で情報発信できるとよい。</li> </ul>
事務局の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化フェア中のアンケート結果は、第 7 回の委員会や市民ワークショップ等、どこかのタイミングで活用することが望ましい。</li> <li>・ワークショップの意見の集約や素案作成は、外部委託も検討する。</li> <li>・シンポジウムの目的と位置づけにより開催時期を検討する。</li> </ul>

第 6 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 回答・意見

日 時	令和 4 年（2022 年）2 月
場 所	書面による開催
回答委員	別紙のとおり
議題	1) 前回委員会の振り返り 2) 今後の方向性 3) スケジュール
審議事項	今後の方向性については全委員が「承認」
意見	
田中会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20 年から 30 年後の街路樹の適切な姿、庁内連携、公民連携を踏まえてワークショップを進めていきたい。</li> <li>・ 市民ワークショップの公募の仕方が重要。熊本市の街路樹政策について賛成も反対もきちんと意見を言ってくれる方を入れる。</li> <li>・ ワークショップの内容は田中が熊本市職員の皆さんや適切な方にアドバイスを頂き考えるので、庁内や市民公募の調整を事務局に願います。</li> </ul>
柴田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民ワークショップの公募の仕方が重要</li> <li>・ ワークショップは公表のスケジュールとは別に、特に庁内ワークショップは継続的に進めていき、熊本市の緑を庁内連携で考えるきっかけとなって欲しい</li> </ul>
吉村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木を切るということは緑が減るということであり、CO2 が増えることに繋がることでもある。</li> <li>・ 全ては難しいかもしれないが、企業誘致先、広場など等に移植ができるものについては移植をした方が良い。</li> <li>・ 大木を新たに購入するより移植の方が経済的である。</li> <li>・ 計画のスパンを長くした方が良い（10 年～15 年計画で少しずつやる方が良い）。</li> <li>・ 対策実施の際は、重要ポイントやエリアを決めて少しずつやっていく。</li> <li>・ 緑のネットワーク、バンクのようなものができればいいと思う。</li> </ul>
松本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、人口減少が進む中で緑を維持管理する担い手の減少や自治体の予算の圧縮が予測される中、その場限りの伐採による縮減策では都市の生活環境の劣化を招く。今だからこそ、将来を見据えた、都市全体の緑の環境を整えることが重要であると考えます。</li> <li>・ 維持管理のランニングコストの低減を考慮した 50 年スパンの計画が必要である。</li> <li>・ 具体的には街路のスケール感に見合った樹種への転換を第一に提案する。例えば、将来巨木化するクスノキやケヤキなどから他の樹種への転換を行う。</li> <li>・ 高木の伐採を中心に緑の量を減らすのではなく、サツキ・ツツジ類等の低木の撤去を中心に考える。この事により、維持管理費の軽減のみならず、都市の温暖化を防ぐ緑被率を確保することが可能となる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観上の問題のみならず、樹木の衰退の原因となっているブツ切り剪定等の不適切な管理を行わない。対策として委託業務発注の際には競争入札参加資格要件の中で有資格者の配置を義務付ける。また、その出来栄えに関して行政で評価を行う。</li> <li>・ 50 年後を見据えた健全な緑の維持のため、新規に植栽する場合には植栽基盤の整備を行い、樹木の生育環境を整える必要がある。このことは近年問題化しつつある都市型の洪水に備える意味でも大きな効果が期待できる。</li> <li>・ 今、都市の緑について市民の見る目が大変厳しくなっている。東京の神宮外苑や兵庫県の明石公園に於ける樹木の伐採について実際に SNS を中心に反対の意見が多く上がっている。このような現状を踏まえ、樹木の伐採のみを先行させるのではなく、その後の植栽計画を公に示し、市民に納得のいく形で再生の姿を具現化していくことが重要である。</li> </ul>
福西委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 庁内ワークショップでは、熊本市全体のまちづくりを考えてほしい。電線の地中化等の他事業との関連性も考えてタイムスケジュールを考える必要がある。このような点からも庁内ワークショップは大切になってくると思う</li> <li>・ 市民ワークショップには、専門的な意見を言える人、予算の視点で話ができる人など幅広い方を集めてやるべき。</li> <li>・ 市民ワークショップでは、一般市民には分かりづらい専門的な情報も事前に提示した方がよりよい計画が策定できると思う。</li> <li>・ グリーンインフラの重要性はわかるが、具体的にどのような効果や経済的なメリットがあるのか分からない人が多いと思う。このことを含めて、街路樹やグリーンインフラの整備や適切な管理といったものにより、地価が〇%上がるなど、具体的な経済効果的な視点で計画の内容が伝えられると良い</li> <li>・ 適正な伐採や管理を行うと、見た目の変化は現状とそこまで分からないということ伝えることも大事。伝え方や見せ方に工夫が必要だと思う。</li> <li>・ 広報では、熊日新聞にコーナーを作ったり、市電の天井に張ってある広報等で情報発信できるといい。</li> <li>・ 重点路線だけでなく、その他の街路樹全体に浸透させていく必要がある</li> <li>・ どうしても切らないといけない木の種などを子供達に渡して家で育ててもらおう等子供たちを巻き込んだ取り組みがあるといい。その際には、外国人家庭や病気・障がいなどで外出が難しいといった孤立しやすい世帯の方々に参加してもらえるような積極的なアプローチ方法を考えてほしい</li> </ul>
内田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の内容を伝え、理解が得られるだけでなく、様々な意見を述べることができる場となるような市民ワークショップを開催して欲しい。</li> <li>・ 上記のことから、市民ワークショップには、街路樹を切って欲しいと思っている市民、切って欲しくないと思っている市民、双方の立場の方々に参加していただくことが重要であるため、双方の立場の方々が参加できるような方法で公募を行ってほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併せて、樹木は伐採するだけでなく、新たな樹種を植栽して街並みの景観の維持に努めていくことも参加していただく市民の皆様に伝えてもらいたい。</li> </ul>
沼田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ワークショップでは、反対意見も含め、幅広い意見を聞ける方が良い。</li> <li>・緑化フェア中のアンケート結果は、第7回の委員会で活用するか、市民ワークショップで照会する等、どこかのタイミングで活用することが望ましい。</li> <li>・ワークショップでの意見を集約し素案に反映させるスケジュールが過密なので、外部委託も検討した方が良いのではないかと？</li> <li>・シンポジウムの目的を明確にし、どういう位置づけで行うかにより開催時期も変わるのではないかと。</li> </ul>
緒方委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹種の変更は植栽当初の背景を調べた上で検討する必要がある</li> <li>・根上がりの事例等が多くみられるため、そのような場所の植栽基盤の改良は有効であるとする</li> <li>・基準の整理の仕方が重要。特に補植の基準は必要。どういった場合に補植が必要なのか、例えば景観性など明確にする必要がある。</li> <li>・間引きをする樹木は、伐採の他の基準（例えば視距不良、根上がりなど）も重複している等、難しい面もあるが、今回実施する間引き基準を明確にする必要がある。その基準との適合性を検証したうえで、間引きが必要だと説明すると分かりやすい。</li> <li>・難しいと思うが... 樹木を回復させられるかの検討も必要ではないかと。</li> <li>・樹木が巨木化しているので高さの基準は必要である。</li> </ul>